



**Q** 中学1年の娘の悩みに付き合って話を聞いているのに、娘は「話を聞いてくれない」と不満気です。

**A** 娘さんがそう感じるには理由があるはずで、意見などは控えて受容的に聞いてみてはどうでしょう。

**無心に聞く**

誠心誠意、相手をしているのに「話を聞いてくれない」と言われては心外でしょう。ただ、娘さんがそう感じているということは事実ですね。

自立期の子供は、親に話を聞いてほしいだけなのかもしれません。親の意見や指示ではなく、受容的な姿勢を親に望んでいるのかもしれない。

子供の言うことに賛成も反対もせず、「あなたはそう思うのね」というスタンスです。「ふうん」「そうなんだ」と相づちを打ちながら、アドバイスはせず、話を

受け止めるのです。

話しているうちに、子供は自分で問題の核心を理解し、解決のヒントを得たりします。

**マスターは客に説教しない**

親は子供の話を聞きながら、途中で問い質したり、正論を言ったりしがちです。でも思春期の子供には、それを押しつけがましいと感じられたり、「お母さんもそうだったよ」という共感の言葉も、「本当に自分のことをわかってるの」といぶかしく感じられたりするものです。

子供の話を聞きながら、親は気の利いた答えを探す必要はあ

りません。子供は多分、自分では答えが分かっっていて、ただ親に背中を押してほしいだけなのかもしれないのです。

思春期に悩みはつきもので、大事なのは、子供の問題を親が解決しようとしないうことです。

「なんでも聞くよ」という、例えばカウンター越しのマスターとお客の関係です。マスターはお客の話に耳を傾けながら、頷いたりします。論したり説教したりすれば、お客は二度とお店に来なくなりそうです。親が受容的でいれば、子供は安心して話を続け、生きる力を自力で溜めていけるようになります。